

朝の礼拝

聖書 詩編 126 章 5-6 節 (旧約聖書 971 頁)

涙と共に種を蒔く人は
喜びの歌と共に刈り入れる。
種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は
束ねた穂を背負い
喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

平和の種

なぜ泣きながら種を蒔くと歌うのでしょうか。この詩人は捕虜であった民が解放され、半世紀ぶりに祖国へ帰還し、ふたたび種を故郷の大地に撒く喜びを歌っているのです。50年間荒廃して痩せた土地を一から耕し種を蒔き、祖国に平和が戻った喜びを噛みしめているのです。

昨日十月の第二月曜日は英和女学院校祖の国、カナダの感謝祭の日でした。ヨーロッパから自由を求めカナダに渡った先祖も、初めて新天地に喜びの涙で種を蒔いたことでしょう。しかし今も、世界では戦乱や災害の中で種を蒔けず、平和を待ちわびている人たちがいます。

先週、イスラエルとパレスチナガザ地区で戦闘が始まりました。アフガニスタン北西部では地震が起こり、伊豆諸島、小笠原諸島でも、また台風 15 号も接近しています。種を蒔くどころか、日々の糧に欠き、極寒の日々をしのぐ術もままならない人たちがいます。

私たちの時代、私たちの世界には戦争、災害、感染症などが大地を襲います。しかしクラウドファンディング、募金活動、静岡、山梨、東京の三英和生が共に取り組む“おにぎりアクションキャンペーン”が始まりました。誰もが一粒一粒、平和の種を撒ける幸いにあります。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは荒廃した大地を耕し、種を蒔く民を慰め、励まし、喜びの歌と共に収穫を与えてくださいます。どうか戦争、災害にある方々を、ひとときでも早く平和な暮らしへと導いてください。そして三英和の生徒たちの平和への祈りと働きを祝福してください。今日から衣替えの予告となります。どうか季節の変わり目を健やかに過ごすことができますように。また今週金曜日には台湾から高校生が来校されます。その旅路を守り、よき交わりが与えられますように。今日からは高校三年生の間接テストです。これからの進路へ向けてよき学びとなりますように。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン